

雪下栽培野菜の収穫時期による糖組成の変化

雪下栽培した野菜は甘く感じると言われており、「大野市道の駅産直の会」では雪下で2週間栽培した野菜を「雪の下野菜」と定義し1~3月に販売しています。この研究では雪下栽培野菜(ダイコン、ニンジン、ハクサイ)の収穫時期と糖組成の変化を検討しました。

1 供試野菜及び積雪状況

ダイコン(品種:三太郎)、ニンジン(オレンジハーモニー)、ハクサイ(黄ごごろ75)は大野市内で2025年度に栽培されました。根雪初日はダイコン、ニンジン栽培地で12月26日、ハクサイ栽培地は1月22日でした。野菜は12月10日~2月9日にかけて、約2週間おきに収穫しました(第1図)。

2 収穫時期と糖組成の変化

1)ダイコン

12月10日(雪下0日)と比較すると、1月26日(雪下31日)はフルクトースの増加が確認されました。2月9日(雪下45日)にはグルコースも増加しました。(第2図上)

2)ニンジン

収穫時期に関わらず糖組成は一定の傾向でした(第2図中)。

3)ハクサイ

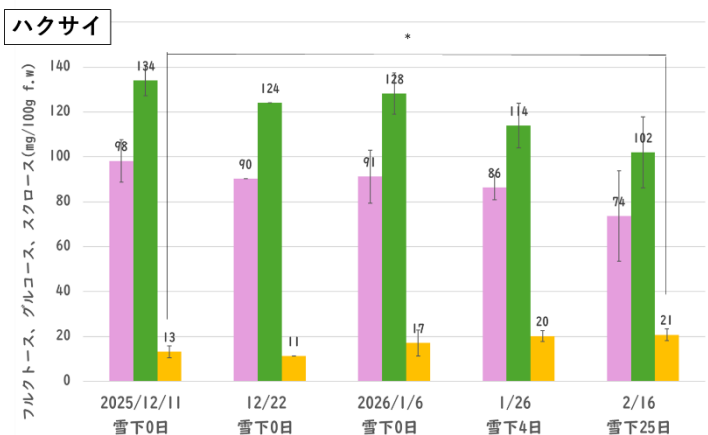
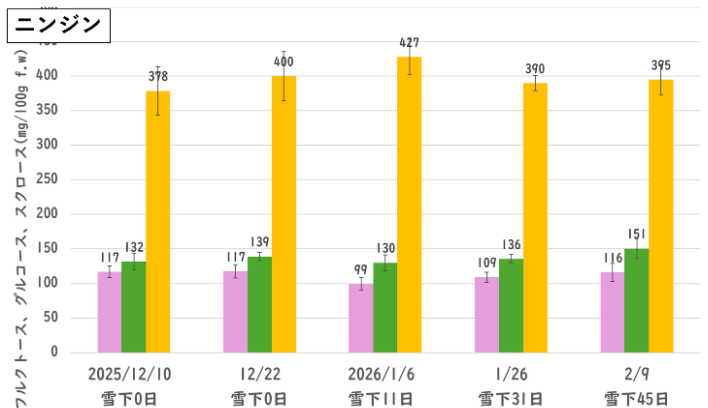
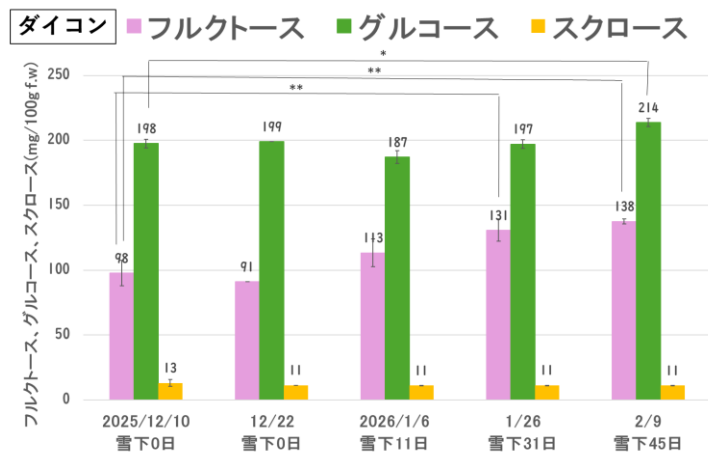
12月11日(雪下0日)と比較すると2月16日(雪下25日)はスクロースが増加しました。フルクトース、グルコースに有意差はありませんでした(第2図下)。

3 まとめ

積雪状況は年によって異なることから、結果は変動する可能性があります。



第1図 雪下栽培野菜の収穫風景
(2026年1月、大野市柿ヶ島)



第2図 雪下栽培野菜の収穫日と糖組成の変化
数字は平均値、エラーバーは標準偏差、** p<0.01、* p<0.05